

【漁況】

[マアジ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、昭和40年の53万トンにピークに減少傾向となり、昭和55年には5万4千トンとなりました。その後増加傾向に転じ、平成8年には33万トンまで増加し、30万トン代を維持しながら、平成9年は32万3千トン、平成10年は31万1千トンでした。しかし、平成11年には大きく減少し20万7千トン（速報値）となりました。

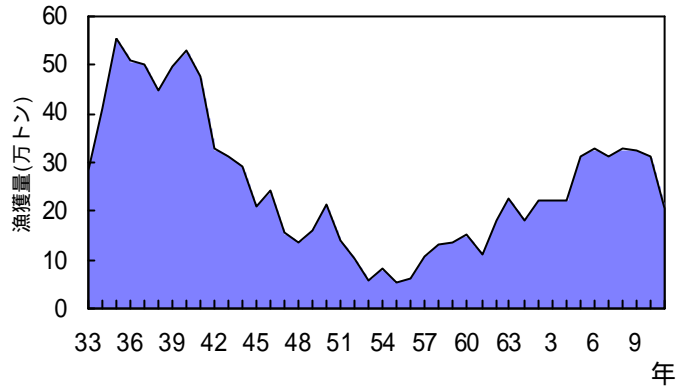


図 全国のマアジ漁獲量の推移

2. 12年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、牛深沖（4月）、甕島周辺（4・5月）、串木野沖（6月）に、薩南海域では、内之浦沖（4・5月）、佐多岬沖（5・6月）、湯瀬（6月）に漁場が形成されました。

4港計では、小アジ（1歳魚・平成11年生まれ）主体に607.4トンの水揚げで、4月に若干、前年を上回ったものの、5・6月は前年・平年を下回り、前年及び平年の70%及び27%でした。6月には、平成12年生まれの加入群が見えてきましたが、漁獲量はあまり多くありませんでした。

3. 12年7～9月期の見とおし

漁獲の主体は豆アジ・アジ仔（0歳魚・平成12年生まれ）で、来遊量は前年を上回って平年を下回るでしょう。

（根拠）

主漁獲対象となる0歳魚（平成12年生まれ）の加入状況は、モジャコ漁での混獲や定置網の漁獲状況、棒受網の混獲状況等から比較的高水準と判断されます。

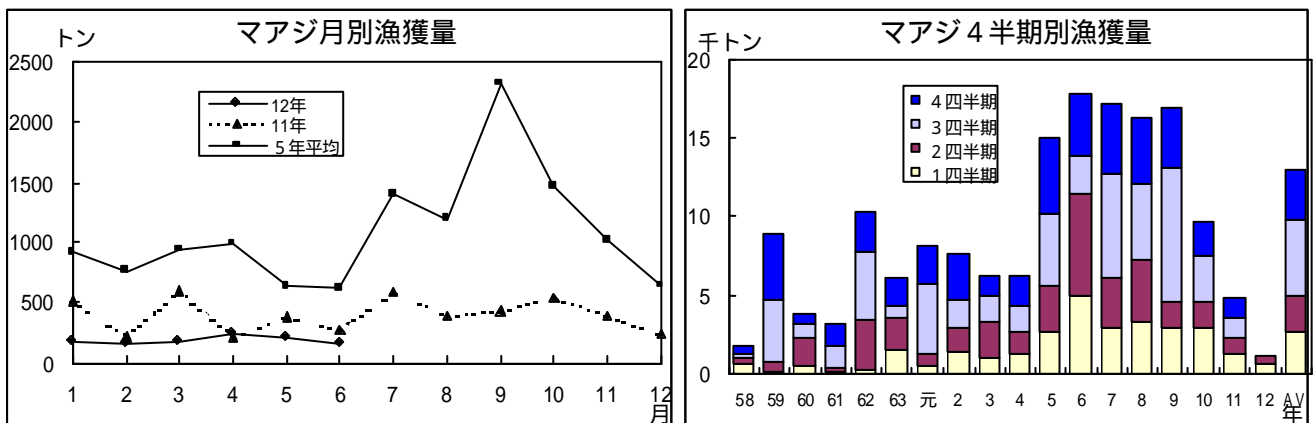


図 マアジ漁獲量変化（4港計）

平年値は過去5年（平成7～11年）の平均値，平成12年6月は21日までの水揚げ量を使用。

[サバ類]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

サバ類の漁獲量は、昭和53年の160万トンにピークにマサバ資源水準の低下により年々減少し、昭和57年には72万トンとなりました。その後は、ゴマサバの増加により大幅な漁獲量の減少は見られませんでした。昭和63年以降はゴマサバの資源水準も低下したため、サバ類の漁獲量は大きく減少し、平成3年には26万トンとなりました。その後、増加傾向に転じ平成9年は84万9千トンとなりましたが、再び減少傾向となり平成11年は37万6千トン（速報値）でした。

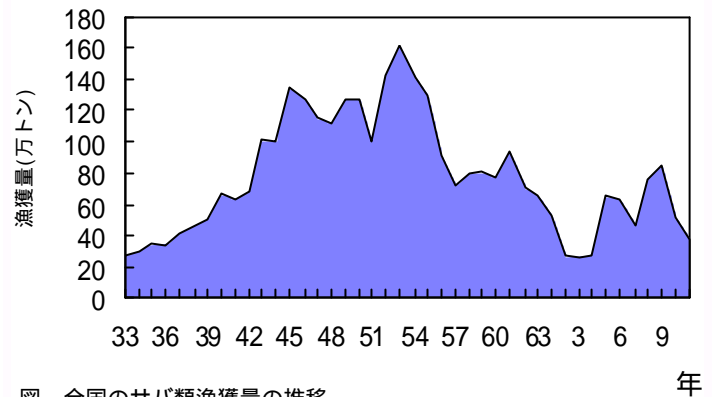


図 全国のサバ類漁獲量の推移

2. 12年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、甌島周辺（4月）、野間池沖（5月）に、薩南海域では、馬毛島周辺（4・5月）、屋久島東（4・5月）、佐多岬沖（4・6月）、湯瀬（5・6月）に漁場が形成されました。特に4・5月の馬毛島周辺では961トンの漁獲が見られました。

4港計では、中ゴマサバ（2歳魚・平成10年生まれ）主体に2,190トンの水揚げがあり、前年及び平年の49%及び64%でした。すべての月で前年・平年を下回り低調に推移しました。

3. 12年7～9月期の見とおし

漁獲の主体は、豆・小サバ（0歳魚・平成12年生まれ）で、来遊量は、前年・平年を下回るでしょう。

（根 拠）

棒受網の混獲状況から、平成12年生まれ群の加入は、平成11年生まれ群より小さいと判断されます。親子関係は明らかにされていませんが、前期の漁模様から、馬毛島周辺への産卵親魚の来遊は前年より小規模と判断されます。

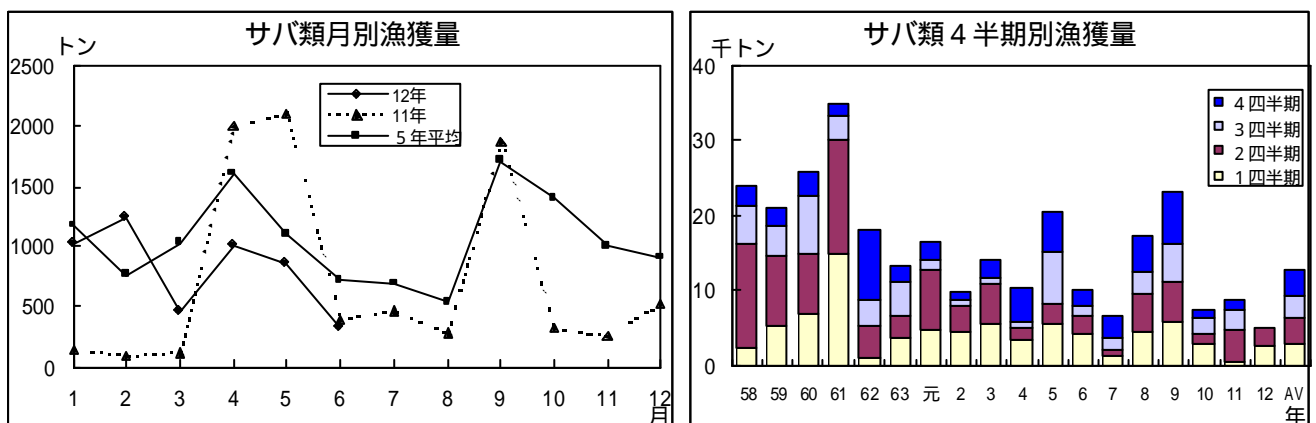


図 サバ類漁獲量変化（4港計）

平年値は過去5年（平成7～11年）の平均値、平成12年6月は21日までの水揚量を使用。

[マイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、昭和30年代から40年代にかけての不漁期の後、昭和48年頃から増加の傾向が見られ、昭和63年には449万トンまで増加しました。しかし、平成元年から三陸沖を中心に漁獲量が減少し始め、その後もマイワシの若齢魚の減少等により、全国的に漁獲量は減少を続け、平成7年には66万トンとなりました。平成9年は28万4千トン、平成10年は16万7千トンとなりました。平成11年には若干資源が回復し、34万8千トン（速報値）となりました。

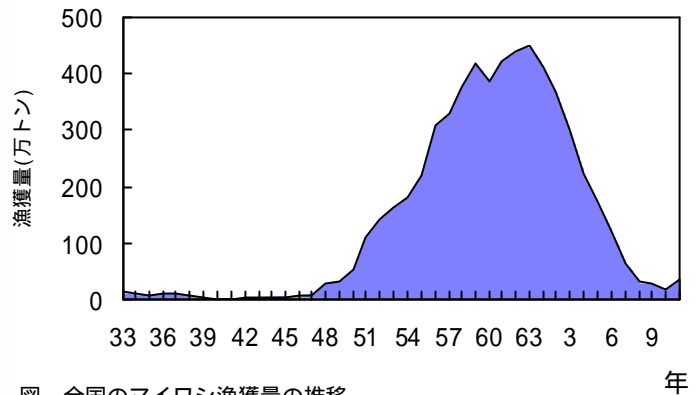


図 全国のマイワシ漁獲量の推移

2. 12年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では甕島周辺（4月）で、他魚種に混獲され若干の水揚げがありました。

4港計では、5.2トンで前年及び平年の3.2%及び0.5%でした。

低水準期（平成8～11年）の4ヶ年平均値との比較では1.8%でした。

3. 12年7～9月期の見とおし

漁獲の主体は小羽（0歳魚・平成12年生まれ）で、来遊量は、前年（26トン）を上回るでしょう。

（根拠）

マイワシの資源状態は低水準にありますが、最近の棒受網の漁模様から、平成12年生まれ群の加入は、平成11年生まれ群より大きいと考えられます。

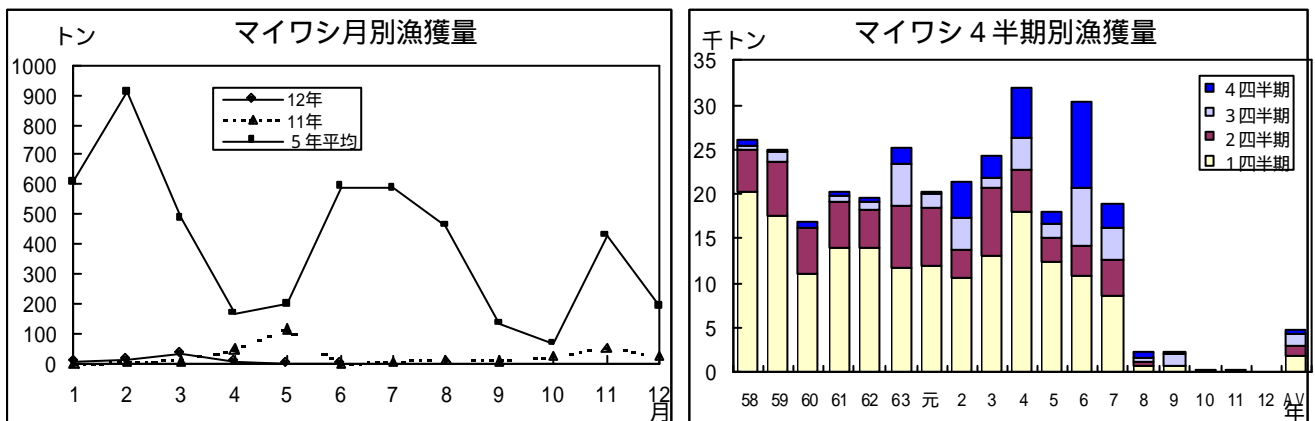


図 マイワシ漁獲量変化（4港計）

平年値は過去5年（平成7～11年）の平均値，平成12年6月は21日までの水揚量を使用。

[ウルメイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、昭和30年代後半から40年代前半にかけて3万トン前後で推移していましたが、昭和46年から54年まで5万トン前後で推移しました。昭和55年以降、漁獲量は減少し昭和60年には3万トンとなりましたが、その後増減を繰り返しながら、増加傾向を示し、平成6年に6万8千トンとなりました。その後減少傾向に転じ、平成9年は5万5千トン、平成10年は4万8千トン、平成11年は2万9千トン（速報値）でした。

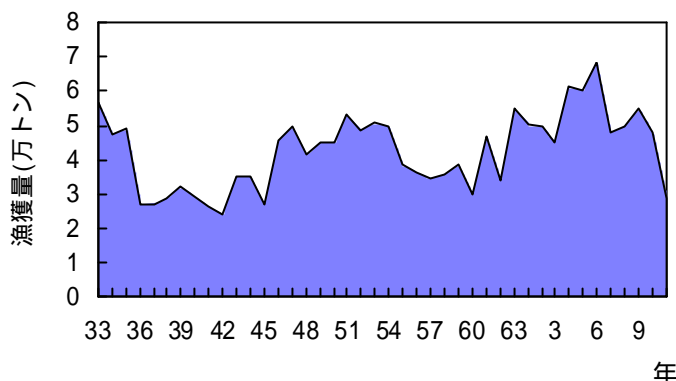


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

2. 12年 4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、串木野沖（5月）に、薩南海域では、佐多岬沖（4・5月）、馬毛島周辺（4月）、湯瀬（5月）等に小規模な漁場が形成されました。

4港計では、143.3トンで、前年及び平年の105%及び46%でした。4月に113トンの水揚げがあり、前年・平年を上回りました。

3. 12年 7～9月期の見とおし

漁獲の主体は小・中羽ウルメ（0歳魚・平成12年生まれ）で、来遊量は平年を下回り、前年を上回るでしょう。

（根拠）

平成10年12月以降の漁獲状況は低調となっています。

前期の棒受網の漁模様から平成12年生まれ群の加入は、平成11年生まれ群より大きいと考えられます。

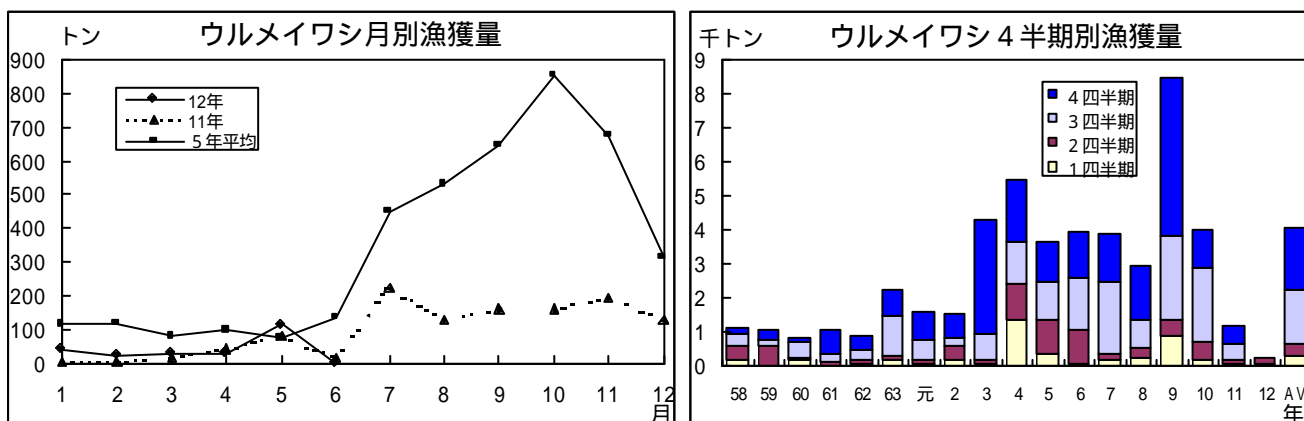


図 ウルメイワシ漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成7～11年）の平均値，平成12年6月は21日までの水揚量を使用。

[カタクチイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

カタクチイワシの漁獲量は、昭和48年まで30万トン台で変動していましたが、昭和49年以降減少傾向となり昭和54年には13万トンとなりました。その後、徐々に漁獲量は増加し昭和59年には22万トンとなりましたが、昭和62年には再び14万トンまで減少しました。昭和63年以降は大きく増減を繰り返し平成9年は23万3千トン、平成10年は47万トン、平成11年は過去最高の48万トン（速報値）となりました。

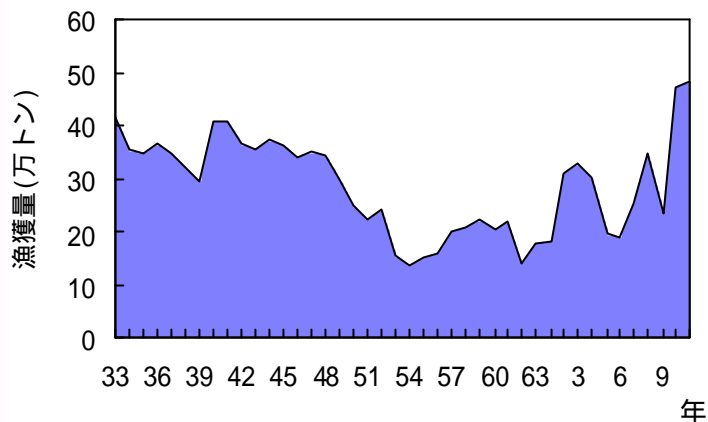


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

2. 12年 4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域の甑島周辺（4・5月）、長島沖（5・6月）に漁場が形成されました。

4港計では、大羽主体に137.7トンで前年及び平年の78%及び108%でした。4・5月は低水準ながら前年・平年を上回りました。

3. 12年 7～9月期の見とおし

漁獲の主体は小～中羽カタクチで、来遊量は、前年を下回って、平年並みでしょう。（根拠）

平成9年11月以降高い来遊水準を維持していますが、他魚種の漁獲状況によりカタクチイワシへの漁獲努力が変化すると考えられます。

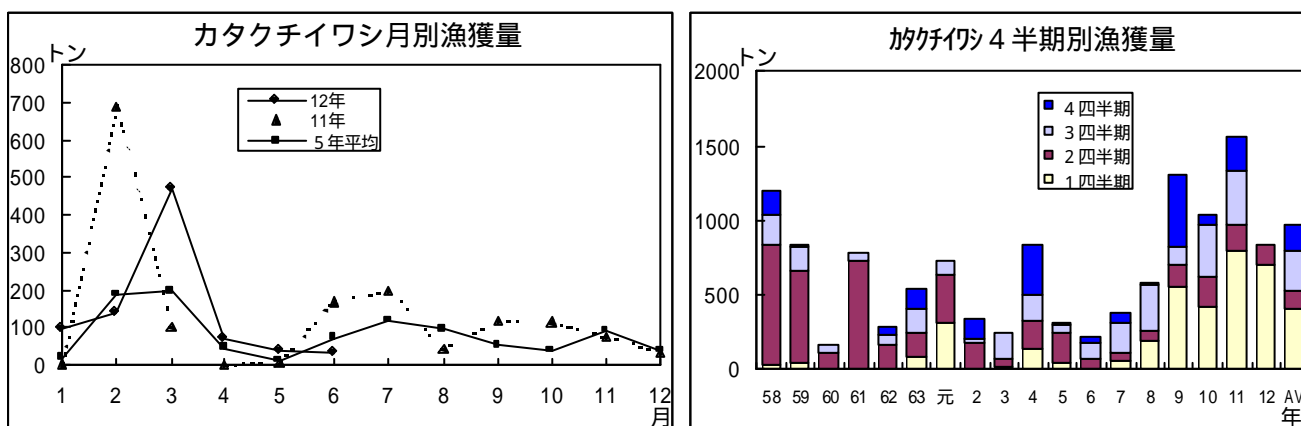


図 カタクチイワシ漁獲量変化（4港計）

平年値は過去5年（平成7～11年）の平均値，平成12年6月は21日までの水揚量を使用。

[その他の魚種]

ムロアジ類 (4 港計)

1. 経年変化及び12年 4 ~ 6 月期の漁況の経過

ムロアジ類の漁獲量は、平成2年の21,700トンピークに減少傾向を示し、平成8年は3,108トン、平成9年はやや増加し3,853トン、平成10年は3,819トン、平成11年は昭和58年以降最低の2,299トンとなりました。

主に薩南海域で漁獲があり、4 ~ 6 月期全体では49.4トンで前年及び平年の19%及び14%でした。

2. 12年 7 ~ 9 月期の見とおし

来遊量は、前年及び平年を下回るでしょう。

オアカムロ (4 港計)

1. 経年変化及び12年 4 ~ 6 月期の漁況の経過

オアカムロの漁獲量は、平成元年の5,300トンピークに減少し、平成6年には1,823トンとなりましたが、その後は増加傾向となり、平成8年には3,451トンとなり、平成9年はやや減少し3,063トン、平成10年は3,413トン、平成11年は2,076トンとなりました。

主に薩南海域で漁獲があり、4 ~ 6 月期全体では256トンで前年及び平年の50%及び32%でした。

2. 12年 7 ~ 9 月期の見とおし

来遊量は、平年を下回り前年並みでしょう。

マルアジ (アオアジ) (4 港計)

1. 経年変化及び12年 4 ~ 6 月期の漁況の経過

マルアジの漁獲量は、平成2年以降低調に推移しましたが、平成7年には1,430トンに増加し、平成8年は1,083トン、平成9年は684トンと減少しましたが、平成10年は1,062トン、平成11年は再び減少し639トンでした。

主に北薩海域で漁獲され、4 ~ 6 月期全体では86トンで前年及び平年の47%及び70%でした。

2. 12年 7 ~ 9 月期の見とおし

来遊量は、前年及び平年を下回るでしょう。

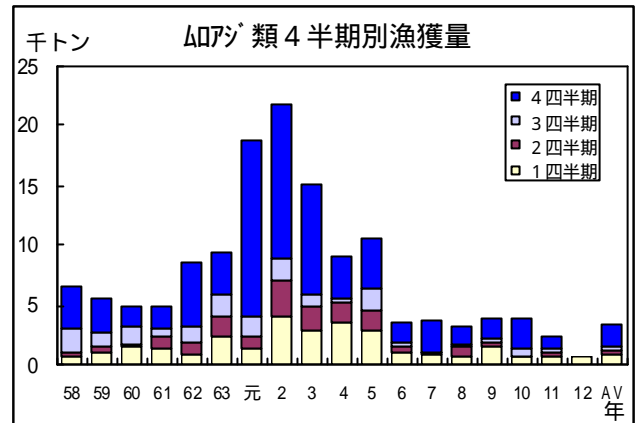
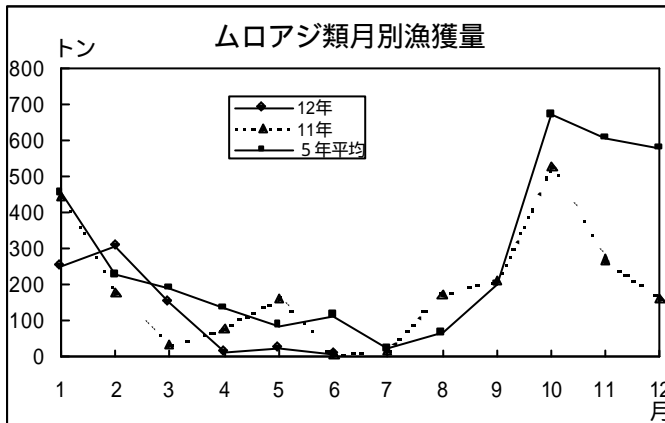


図 ムロアジ類漁獲量変化(4港計)

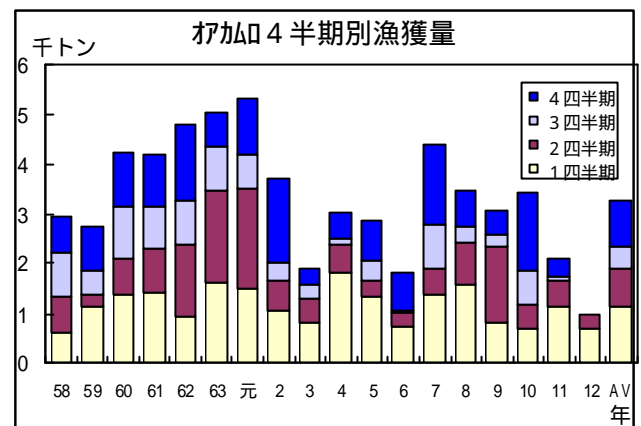
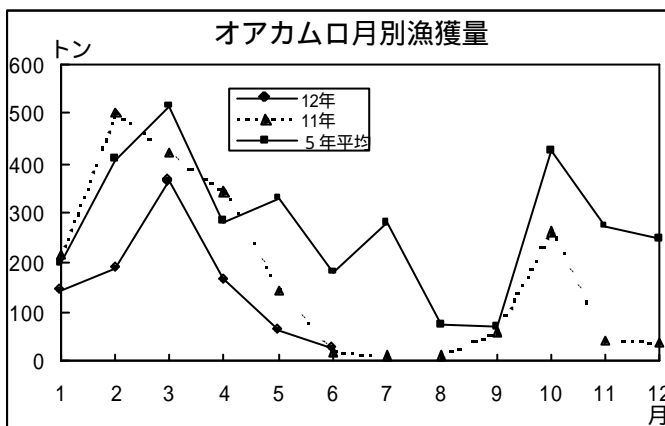


図 オアカム口漁獲量変化(4港計)

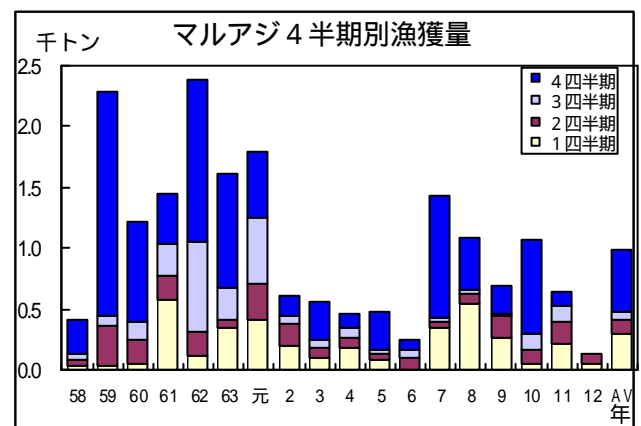
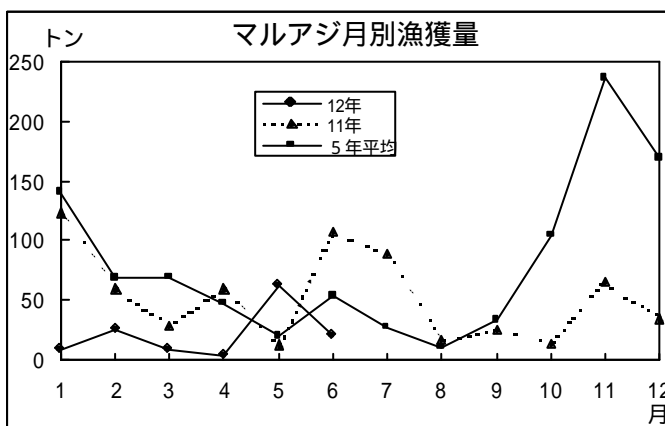


図 マルアジ(アオアジ)漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年(平成7~11年)の平均値,平成12年6月は21日までの水揚量を使用。